

# 発達障害児のきょうだいの心理的支援プログラムに関する研究(1)

## 保護者の心理面や態度に及ぼす効果について

平山 菜穂 ・ 井上雅彦 ・ 小田憲子  
(大野小児科) (兵庫教育大学) (神戸女子大学)

Key Word : 発達障害児のきょうだい、心理的支援プログラム

### ・問題と目的

障害児の家族についての研究では健常の兄弟姉妹(以下きょうだい)を対象にした研究は少なく、わが国では障害をもった同胞(以下同胞)によって生じたストレスや葛藤に対する心理的支援策も明らかになっていない。そこで本研究では Myer&Vadasy (1994) のシブショップのプログラムを参考にきょうだいの短期の心理的支援プログラムを日本むけに開発・実施し、心理面および行動面に対する効果について検討していく。(1)では保護者の心理面や態度に及ぼす効果について検討することを目的とする。

### ・方法

#### 1. 対象

発達障害児をきょうだいにもつ6歳~13歳の子どもとその保護者16組(自閉症7組、知的障害5組、その他4組)であった。インターネット・親の会・学校の先生の勉強会・定期的にA大学へ療育相談にきている保護者などに情報を流し、募集した。

#### 2. 手続き

##### 1) 支援プログラムの実施

きょうだいの心理的支援のプログラムは体を動かす遊び、落ち着いた遊び、話し合いの活動を交互に組んで作成した(Table.1)。遊びの活動ではレクリエーションにグループカウンセリングの理論を応用したコミュニケーションゲームを主にとり入れた。話し合いの活動では自分のきょうだいのことについて考え、同じ立場の他の子どもたちの体験を知る機会になり、ピアサポートの場になることを目的とし、自分のことやきょうだいのことを考える話し合い活動をおこなった。対象児の年齢幅が広いので、話し合いの活動では人形劇などを取り入れるなど視覚的にわかりやすいように工夫をおこなった。第1回目と第5回目は子どものプログラムと併行して親の会をおこなった。親の会では第1回目はきょうだい支援の会についての説明やきょうだいがかかえやすい悩みについての講義をおこない、保護者同士の自由な話し合い場面を設定した。第5回目ではプログラムの中で子どもたちの様子や変化についての報告をおこなった。その後きょうだいについての悩みについて保護者間で相互の意見交流をおこなう場を設けた。

Table.1 きょうだい支援の会のプログラムの例

時間	第1回目
10:00	似顔絵名札
10:30	キャッチ
10:40	進化ジャンケン
10:55	ネームトス
11:10	長所と短所 <話し合い>
11:30	サムライ
11:40	昼食(カスクート)
12:40	風船リレー
12:50	ブラッピーおばさん <話し合い>
14:00	次回の相談

##### 2) 事前・事後の評価

保護者へは事前・事後の質問紙による評価をおこなった。質問紙は自由記述と質問項目から構成された。質問項目では心身障害幼児をもつ母親のストレス尺度(新美, 1979)の一部を利用した。また事前テストと事後テスト以外に各回終了後に「感想と子どもの変化」をスタッフにフィードバックしてもらうことを保護者に求めた。

### ・結果と考察

#### 1) 質問紙による評価

各質問項目において符号検定をおこなった。その結果、各項目ごとによる事前事後の比較で1%水準で有意差が認められたのは「自分の悩みを話せる友達がいないのでさみしい」「同じ病気や症状をもつ子どもの親に話を聞きたいと思うが、なかなか見つからないので困っている」「きょうだいには日ごろ我慢させることが多いのですまなく思う」「家の外へ出て行って同じ立場の人と話す機会がないので気が晴れない」「障害のことをきょうだいにどうやって理解させたいのかわからない」など29項目中5項目、5%水準で有意差が認められたのは18項目であった。これらの質問紙の分析結果から保護者のストレスや不安が減少したという結果が得られた。

#### 2) 保護者の心理ときょうだい支援の会の効果について

1回目の親の会のあとに求めた感想ではシブショップについての理解もきょうだいの悩みについての理解もほぼ達成された様子がみうけられた。主な感想は「基本的なことがらやきょうだいのもつ悩みや問題点がわかってよかった」「考えさせられることが多くあり、もう一度夫婦で話し合ってみようと思った」などであった。5回目の親の会では保護者同士話をする場面も多くみられるようになった。初めに保護者自身で自己紹介とコメントを発表する場を設定したが、家庭や学校でのきょうだいの様子、きょうだい関係などが保護者から語られた。話し合いの活動の様子と子どもの記述内容をまとめたものを口頭でフィードバックしたが、保護者は遊びの活動よりも話し合い活動のほうに関心が強い様子であった。その後の感想では「子どもは親が考えている以上にしっかりといろいろなことを考えていたので驚いた。」という記述もみられた。その一方で保護者は障害児についての説明をきょうだいにおこなう際に「あ のとき自分の障害についての伝え方はよかったのだろうか」という不安を抱えてきた者も多く、親の会で他の保護者と話をしたり、きょうだいの心理に対する講義をきくことでその不安が減少したようであった。

以上のことからきょうだい支援プログラムと併行して親の会をおこなうことで、きょうだいの抱えやすい悩みを知り、同じ立場の保護者と知り合い意見交換することができたことでストレスや不安の減少につながったと考へえられる。

HIRAYAMA Naho・INOUE Masahiko・ODA Nriko